

天文学とプラネタリウム

第147回



今月のお題

セーラー月の宇宙

セーラー月の宇宙を堪能してきました。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

本誌でも紹介がありました。この4月から6月頭にかけて六本木ヒルズ東京シティビューで美少女戦士セーラーMoon展が開催されました。期間中に何回か覗きに行く機会があったのですが、常に大盛況。みなさん熱心に展示をご覧になっていて、作品に対する愛の深さを感じます。うーん、羨ましい限り。

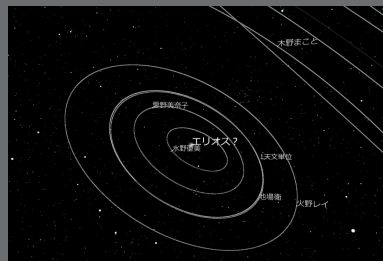
このセーラーMoon展に合わせて、何か連携イベントをというお誘いをいただいたのが3月のこと。月の光に導かれ〜♪という主題歌や、太陽系の天体にちなんだキャラクターが登場するということは知っていたのですが、物語全体はさっぱりです。でも、とっても人気がある作品ということは重々承知していましたので、これはしっかり予習をせねばということで、まずは原作の漫画を一式揃えて勉強するところからスタートしました。

実は、作者の武内直子さんが天文好き

であることは以前から知っていました。私たちも座長を務めたことがある天文・天体物理若手の会の「天文学と社会」分科会で、先代から引き継いだ資料の中に武内さんのインタビューの記録があったのです。そこには、武内さんの天文学への興味と温かい応援メッセージが記してあったことが、強く印象に残っていたのです。

そんなことを思い出しながら改めて漫画を読んでみると、随所に天文学のネタが散りばめられていることに気づかされます。登場人物はもちろんのこと、物語の舞台や小ネタにも天文学の知識がふんだんに活かされているのです。なにを今更とファンの人には怒られそうですが、知らなかったんです。ごめんなさい。

しっかり勉強した甲斐もあり、期間中に行われた観望会と講演会はなかなか好評だったと思います。シンプルに月を愛でたり、セーラー戦士に絡めて惑星を紹介するなど、主役はあくまでもセーラーム



講演会用に仕込んだセーラーMoon仕様の特別版Mitaka。けっこう楽しい。

ん、私たちはその刺身のツマという立ち位置をキープしたのが功を奏したようです。講演会では、現在放送中の「美少女戦士セーラーMoon Crystal」の脚本家である小林雄次さんとセーラーMoon世代の天文学者である松本尚子さんをお招きして、小ネタ満載の講演をしていただきました。

まだまだ気づいていないだけで、他にも天文学と絡めて楽しめる作品がありそうな気がします。意外なコラボの機会ももらえるのも、六本木天文クラブの良いところ。ということで、今後いろいろ開拓していきたいと思います。

147

147